

総合的な学習の時間 学びづくり案

福山市立一ツ橋中学校

授業者 31R 吉田 侑太

32R 佐々木 将仁

1. 日 時 2023年(令和5年)7月21日(金)

2. 学年・組 第3学年 1組(43名) 31R教室

2組(44名) 32R教室

3. 単元名 「自己実現に向けて」

4. 単元について

(1) 単元の設定期理由

社会の変化が著しい現代社会において、今後、生徒が夢や希望をもち、自ら将来を切り拓いていくために、自己の生き方を主体的に考えることが大切であると考え。そのために、将来、自分がどのような人間になりたいかを考え、どのように自分の進路を切り拓き、実現していくか、そのために、どのように行動するかが大切である。また、自分ごととして自分の将来に向き合う中で、「自己を認識する力」「自分の人生を選択する力」「表現する力」を育成できる単元である。

中学校卒業後の進路を自分ごととして考え始めるこの時期に、生徒が、自分の将来について考え、自らに必要な力ややるべきことについて課題意識を持つことができると考える。また、大学生や大人へのインタビューや体験を通して、自己実現に向けて行動できる力を育成できると考える。そして、自己実現に向けて、具体的に考えたことを他者に紹介することで、自分のことを表現する力を育成できると思い、単元設定を行った。

(2) 生徒観

本学年の生徒は、前年度の総合的な学習の時間に「働きがい」というテーマで単元づくりに取り組んできた。「将来、福山市で働きたいか?」という問いから始まり、「福山市を都会にする」というテーマでの活動を通して、自分たちで課題を立て、市役所と連携しながら情報収集を行い、整理・分析しながらグループごとにまとめた。生徒アンケートは、以下のような数値となっている。

質問	当てはまる	まあ当てはまる	あまり当てはまらない	まったく当てはまらない
総合的な学習の時間は、おもしろい	15.3%	56.9%	19.4%	8.3%
自分の将来について「本気で」考えている	42.4%	44.1%	15.3%	3.4%
総合的な学習の時間は、「自己を認識する」時間となっている	35.6%	52.5%	11.9%	0%
総合的な学習の時間は、「自分の人生を選択する」時間となっている	32.2%	55.9%	11.9%	0%
総合的な学習の時間は、「自分を表現する」時間となっている	32.2%	54.2%	10.2%	3.4%
総合的な学習の時間は、自分の将来に関して、視野を広げることができる時間となっている。	35.6%	57.6%	10.2%	0%

また、「自己実現において、必要なことはなんですか」という項目では、「自分をよく知ること」「自分のこととして、具体的に現実的に考えること」「自分の好きなこと、得意なことを自分で表現することが必要」といった回答があり、自己理解を深めることが大切であると感じている。

(3) 指導観

本単元の指導にあたっては、生徒が自分の将来について、探究していくことによって、将来に向けて、「今、何をすべきで何ができるか。」を探究し、自己理解するよう進捗状況を確認しながら、一人一人へ面談等を通して支援を行う。

「このような大人になりたい。」をスタートとして、様々な人からの話や意見をもらいながら自分の良さ・強みを知り、強みが生かせる職業を考え、「自分がしたいこと」は何かを探究する。そして、自分の強みが生かせる進路選択を考え、「自分が描く将来像」に近づくために必要な考え方や能力等を理解し、日々の生活の中で伸ばしていく方法を考え実行できるよう外部連携の設定や声かけ等の支援を行う。

5. 単元目標

自己の進路を考える活動を通して、自己実現に向けて、様々な進路選択、職業選択をすることが大切であることを理解し、自分にとって必要な課題を多面的・多角的に捉え、解決方法について考えるとともに、自らの生活や行動に生かすことができるようにする。

6. 本単元で育成する力

資質・能力	育成するための手立て
学びに向かう力	自己実現に向けて、「自分ごと」として考えることができ、今の自分の将来に関する課題を提示する。生徒の声を聞き、生徒の「やりたい」という思いにできるだけ対応し、生徒が本物に触れることで自分の将来を自分ごととして考えられるように外部連携等の手立てを行う。
課題発見・解決力	生徒たちの「やりたい」だけではなく、教師が、生徒の状況を合わせて、外部連携を行い、生徒が新たな発見や課題を持つことができるような機会を持つ。また、生徒が自分の言葉で課題解決の計画を確認できるように自己・他者と対話する時間を持つ。
対話する力	ICTや図書館、本物の体験活動から得た情報を元に、自己・他者との対話を通して、新たな情報の収集や、整理・分析を行い、表現を改善するなど、自分の考えを深めたり発展させたりできる場面を設定する。

7. 単元の観点別評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
①「概念的な知識の習得」 自己実現に向けて、様々な進路選択、職業選択をすることが大切	①「課題の設定」 自分の将来を見据え、今自分に必要なことを課題として設	①「自己理解・他者理解」 自己実現の探究活動の振り返りを通して自己の課題や成長に

<p>であることを理解している。</p> <p>②「自在に活用することが可能な技能の獲得」 自己実現に向けて、必要な情報を様々な方法を通して収集している。</p> <p>③「探究的な学習のよさの理解」 自己実現に向けて、自分の今と将来を比較しつつ、自分の将来について語るができることが、自己探究をしてきた成果であることに気付いている。</p>	<p>定し、解決への見通しをもって計画している。</p> <p>②「情報の収集」 自分の課題に対する解決策を情報収集し、情報を整理しながら進めている。また、多様な方法の中から効果的な手段を選択している。</p> <p>③「整理・分析」 様々な手法から得た情報を精選し、比較・分析を行う中で、解決策のための情報を整理している。</p> <p>④「まとめ・表現」 自己実現に向けての課題を振り返る中で、自己分析ができている。その中、また新たな課題が見つかったり、自己の成長について表現したりすることができている。</p>	<p>気付くことができる。また他者の探究活動を認め、自己の探究活動に生かそうとしている。</p> <p>②「主体的・協働的」 自己・他者との対話を通して得た学びをまとめ、表現しようとしている。また、他者の意見を通して、自己の探究を見直し、改善しようとしている。</p> <p>③「将来展望・社会参画」 自己の生き方、将来を考える中で、今の自分の課題を自分ごととして考えることで、自己実現を図ろうとしている。</p>
---	--	---

7. 単元におけるルーブリック

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
<p>③「探究的な学習のよさの理解」 A 自己実現に向けて、自己課題の解決は、自己探究をしてきた成果であることに気づき、新たな課題や新たな自分を形成しようとするができる。</p>	<p>①「課題の設定」 A 将来の自分を想定した際、自分にとって必要な課題を多面的・多角的に捉え、解決への見通しをもって計画することができる。</p>	<p>②「主体的・協働的」 A 自己・他者との対話を通して得た学びを整理し、比較・分析を行いながら、新たな課題を見出す。また、まとめへと繋げたり、表現したりすることができる。また、様々な体験を通して、自己の探究サイクルを再構築することができる。</p>

<p>B 自己実現に向けて、自己課題の解決は、自己探究をしてきた成果であることに気付くことができる。</p> <p>C 自己実現に向けて自己課題の解決を、自己探究学習で行うことができる。</p>	<p>B 将来の自分を想定した際、自分にとって必要なことを課題として設定し、解決への見通しをもって計画することができる。</p> <p>C 将来の自分を想定した際、自分にとって必要なことを課題として設定することができる。</p> <p>③「整理・分析」</p> <p>A 様々な手法・体験で得た情報を精選し、比較・分析を行う中で、新たな課題を見出したり、解決策のために整理したりすることができる。</p> <p>B 様々な手法・体験から得た情報を精選し、比較・分析を行う中で、解決策のための情報を整理することができる。</p> <p>C 様々な手法・体験から得た情報を解決策のために整理することができる。</p>	<p>B 自己・他者との対話を通して得た学びをまとめ、表現することができる。また、体験活動を通して、自己の探究サイクルを見直すことができる。</p> <p>C 自己・他者との対話から得た学びを自己探究のまとめへと表現することができる。また、体験活動を通して、自己の探究サイクルを見直すことができる。</p>
---	--	---

8. 単元計画【全60時間扱い】

テーマ	単元	小単元	活動内容
	キャリアプランニング	<p>「進路選択はどのような人生を送りたいか！！」①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の未来を考えよう 35歳になった自分を考える。その時に必要な力は何か、を考え今からできることは何かを考える。 ・本物に学ぶ 「龍谷高等学校キャリア教育」出前授業 	<ul style="list-style-type: none"> ・将来の自分を想像し、どのような35歳を送っているのか、仕事や生活を考える。その場面で何が必要か分からない事が出てくる。そのことを調べる。 ・キャリア教育とは何か、高等学校の先生の話聞く。また、高校生がどのように大学選択、就職選択をする

自己 実現		<ul style="list-style-type: none"> ・大谷翔平に学ぶ 「マンダラチャート」を作成し、 自己実現に向けた取組を考えよう。 ・大学生に学ぶ 「座談会」を開催し、自分の今の 悩みを解決してもらおう。 ・職場のプロに学ぶ 「職場訪問」を通して、自分の職業 観を広げよう。 <p>【本時】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達に学ぶ 他人から見た自分の個性や特徴を 知る。 	<p>のか、話を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大谷翔平が作成している夢ノートを 参考に、自己実現に向けた取組を自 分なりに考えていく。 ・今自分が分からないことや、悩んで いることを大学生との座談会を開 き、質問をし、教えてもらう。 ・自分の興味のある職業を調べ、働い ている方に職業観を聞く。 ・自分が思っている個性や特徴と、他 人から見た自分の個性や特徴のず れを認識し、プラスとするか、課題 とするかを考える。
	キャリアビジョ ン	<p>「進路選択はどのような人生を送り たいか！！」②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大谷翔平に学ぶ 「マンダラチャート」を再度作成し、 前回作成したものとの比較・分析を行 う。 ・オープンスクールに参加し、高等 学校選択に向けて自分のビジョン を本格化していく。 ・高等学校説明会の開催 ・大学生との座談会での話を思い 出し、進路選択に今何が必要か、考 える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のキャリアプランを見直し、 課題に気づく。 ・高等学校説明会を行い、参加する なかで、自分の疑問、様々な課題が 生まれる。その解決策を見つける。 ・勉強に本気になる、勉強以外にも 本気になる。
	キャリアパス	<p>「進路選択はどのような人生を送り たいか！！」③</p>	

		<ul style="list-style-type: none"> ・大学新生活や専門学校のための具体的なイメージをつけるために、学校訪問に行く。そこでの生の声に触れ、自分の進路に繋げる。 →勉強だけでない自分の自立を見つける。 →納税者になれる、自立をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・この1年の自己実現に向けて考えたことを後輩に伝え、今の大切さを教える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高等学校の選択をする中で、高等学校の次のステップを考える。そのステップを知り、考えて自分の高等学校の進路選択を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・自分の迷ったこと、悩んだことも踏まえて1年間を振り返る。また、これから取り組んでいこうと思っていることを後輩に伝える。
--	--	---	--

9. 本時の展開

	本時の展開	留意点	評価基準
課題把握	① 今までのプランニングシートを再確認する。 ② 自分の性格診断を行う。 ③ この時間は他人から見た自分の個性や特徴を確認する。	今までは自分のことを、把握していたということを確認する。自分の目標やそれに向けてどうするか。 素直に受け止めることが必要であるが、嫌な思いをする人が出ないように言葉選びが重要である。	ワークシート 机間巡視
展開	④ ルールの説明 4枚のジョブカードに合う班員を選ぶ。どういうところがそのカードに合うのか、また合わない項目の理由を書く。 ⑤ 班内で交流する。 ⑥ クラス内で交流をする。	普段の生活や、授業中のエピソードも踏まえて説明ができるようにワークシートに書く。	ワークシート (ロイロノート)
まとめ	⑦ 自分で思っている個性や特徴と、他人から見た自分の個性や特徴のずれを認識し、そのずれを受け止め、プラスにするか、課題するかを振り返る。	マンダラチャートに、自分で認識していることは赤色、友達の認識は青色で書き込む。	ワークシート

10. 本時のルーブリック評価

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
<p>A 他人から見た自分の個性や特徴を受け止め、自分が思っている個性や特徴のずれを自分の課題に捉えて、自分自身を振り返ろうとしている。</p> <p>B 他人から見た自分の個性や特徴を受け止め、自分が思っている個性や特徴のずれを自分の課題として捉えようとしている。</p> <p>C 他人から見た自分の個性や特徴を受け止めようとしている。</p>	<p>A 仲間のことを考え、相手にとって必要な課題を多角的・多面的に捉え理由を添えて伝えている。</p> <p>B 仲間のことを考え、相手にとって必要な課題を多角的・多面的に捉え伝えている。</p> <p>C 仲間のことを考え、相手にとって必要な課題を伝えている。</p>	<p>A 自己・他者との対話を通して得た学びを整理し、新たな課題を見出し、表現しようとしている。</p> <p>B 自己・他者との対話を通して得た学びをまとめ、表現しようとしている。</p> <p>C 自己・他者との対話から得た学びをまとめようとしている。</p>